

奥能登人とふるさとを結ぶ紐帯 能登空港を守れ！「応援隊」結成

7月24日池袋ホテルメトロポリタンにおいて、「能登空港応援隊結成式・交流会」が開催された。応援隊は、首都圏のふるさと会の役員など約80人で結成された。

表正人石川県空港企画課長から開港以来「優良地方空港」であった能登空港が開港8年目で搭乗率55.8%と目標搭乗率62%を下回った。

東日本大震災の影響もあ

ったものの、搭乗率の低下は能登空港存続に関わる重要課題であり、危機感を持つて利用促進を図ろう、と訴えがあった。

結成式の後、品川区内の商店街や夏祭り会場でチラシ配布などキャンペーンを行い世界農業遺産など能登観光をPRした。

芥川賞作家

荻野アンナさん 珠洲訪問

荻野アンナさん（慶應大学文学部フランス文学科教授）は珠洲商工会議所の招請で、8月31日から1泊2日で珠洲市の観光地などを訪れました。

弊紙に紀行記が寄せられました。連載予定です。
（第2面をご覧ください）

応援隊のPR活動の予定

○10月16日（日）11:00～16:30 品川区中延 荏原商店街
「秋の賑わいフェスタ」
○11月12日（土）～13日（日）10:00～16:00 大田区平和島 平和島公園
「OTAふれあいフェスタ2011」



決意表明の東京輪島会寺沼幸子会長



珪藻土切り出し体験中の荻野さん

いらむ

アイデンティティ ⑫

珠洲や温もる土までもー

素朴な味わいの「珠洲焼」

幼い頃、祖母に連れ立って耕した畑の傍が珠洲焼の古窯跡であった。その土だけは鉄にガツガツと石ならず櫛目模様や四耳壺が想定される欠片に当たる耕音の響きがあった。祖母は「伝えによると窯の遺構があった所である」と語っていたものである。この辺り一帯を以前から「窯の前」と呼び、調査で見えられた珠洲焼窯跡は40基の一つ・珠洲市宝立町柏原西方寺窯跡「郷力マノマ工窯跡群」である。

貯蔵に使われた甕や壺、調味の鉢など実用の須恵器系陶器は今や民芸品として心ある民家に残されているが、十五世紀末頃に歴史の悪戯によって北陸を越えて流布した古珠洲焼は廃絶してしまった。

只今、私の目の前に晩酌を楽しむ自称珠洲焼名品がある。蘇った故郷に独自の風合いの絶品である。土品は決して口をきかない。されど、優しく語り掛けてくる。

鉄分の多い珠洲の土は、窯の中での大量の薪に焚かれ、その灰が溶けて流れて特有の自然釉が描かれるという。終盤、燻べ焼きなどの技法によって、粘土の鉄分や酸素と炭の炭素が化合して独特の黒灰色を生み出すのである。見るからに焼き物の真髄に迫る武骨で素朴な幻を秘めた名陶と自賛したくなる。

この黙して語り掛ける再興された珠洲の宝は、現在進化の途上にある。値打ちある地場産業として進展を企画されることを祈念するとともに、その醍醐味の目と心を世に広げていきたいものである。

アンナの珠洲日記(1)

能登空港にはゲンさんの車が待っていた。源と書いてゲンと読む。

商工会議所の「振興課長(兼)観光と物産推進室長」。肩書はジューグムのように長いが、ゲンさんとは呼びやすい。

「ミナモトのお家柄ですか?」

「義経から僕で三代目です」

25代目くらいに答えておけば相手は信じかねない。3代目でネタばらしをする生真面目さは珠洲ならでは、と後で分かる。

確かにこの地には義経伝説がある。安宅の関から能登へ回った義経が、佐渡へ渡ったことになっている。その関係で須須神社には義経の笛と弁慶の守り刀が収められているという。

ゲンの本家は歴史がある。親戚にはあえてミナモトに戸籍を変えた人がいるそつだ。



車窓は緑が濃い。高からず低からずの山が両側に続く。

のんびり、のったり、心を解放してくれる景色だ。

同行のチエはお母さんが金沢出身で、チエも20年ほど前に珠洲を訪れ、キリコ祭りを見たことがある。

「20年前にご覧になったものは、今でも健在ですよ」

車は「レストラン浜中」に着いた。

落ち着いた小部屋にチエと私を残し、ゲンさん、一時退去。気を使ってくれたのだ。



気を使われると、図に乗る2人である。早速ビールの後に日

いしる鍋が運ばれてきた。い

しるはイカのしょつとる、と教

えられた。浜中式は冷凍したイカを内臓ごと輪切りにして供する。

鍋の中で半分溶けかけたワタは



極上の美味である。汁も実もイカの、イカ三昧。「宗玄」の冷酒が進む。

「とんとん」

襖越しに男性の声がした。ドアをノックしたつもり、とは芸が細かい。ご主人の浜中さんは、料理は重厚だが人柄が軽妙である。

「いしるは、いい言い方するとジャパニーズ・ナンプラーです」鍋には地元のアカムクが入っている。シャリシャリの口当たりが癖になる。

「いいなあ、ここ住みたいなあ」

チエと顔を見合わせた。チエは人妻、私は独身。

「誰か独身の人がいたら紹介して下さいよ」

浜中さんはすかさず答えた。

「いっぱいいますよ。家付きジジ付きババ付きでね」

荻野、無言で冷酒に手を伸ばした。(つづく)

珠洲は「清盛」ゆかり

泉谷市長ら NHKに紹介要望

泉谷満寿裕珠洲市長 弟・平時忠が配流されは15日、東京・神南のNHK放送センターを訪れ、来年の大河ドラマ「平清盛」で、「平家ゆかりの地」として珠洲を紹介してほしいと要望した。

奥能登には平家が滅亡した壇ノ浦の戦いで死罪を免れた清盛の義

大河ドラマで珠洲の紹介を要望する泉谷市長(左) 東京・神南のNHK放送センター



組部長は本編終了後の紀行コーナーで取り上げる案も紹介し「取材を兼ねてお世話になることもあるかもしれない。強い要望があったと担当者に伝えておく」と応じた。

要望には珠洲商工会議所の今井欽次会頭、藤野裕之副会頭、能登平家の郷構想推進協議会の大兼政忠男会長、珠洲市観光大使の光眞章氏らが同行した。

石川県人会
会員募集中!
TEL
03-3556-1414

新宿支店での「能登ふるさと博ロビー展」について

北陸銀行新宿支店(支店長 小倉章史)では、平成23年7月1日より8月31日まで、能登ふるさと博をPRするロビー展を開催いたしました。当店では定期的に地元店舗のPRを行っており、今回は第10回目のロビー展となりました。

ロビー展では、奥能登、珠洲を代表する「天然の能登塩」や「塩サイダー」、「能登きりこのミニチュア」に加え、珠洲地区の様々

なパンフレットを展示いたしました。6月に「能登の里山里海」が世界農業遺産に指定されたこともあり、お客さまは展示物を写真に撮るなど、興味深く見ていらつしました。

当店は今後も地域密着型の銀行として地元のPRを行ってまいります。

〈本件に関するお問い合わせ先〉

北陸銀行 新宿支店 高木
Tel: 03-53689-7111

東

京

新

聞

2011年(平成23年)9月5日(月曜日)

「能登・珠洲を訪れて」 願い込め見附島描く

銭湯絵師 品川の居酒屋に壁画
中島さん

石川県・能登半島の雪をかぶった立山連
観光名所、見附島(珠洲市)を壁面に描く製
作会が四日、品川区上

大崎の居酒屋「能登の
夜市」であった。珠洲
市観光大使の銭湯絵師
中島盛夫さん(六六)練
馬区Ⅱが「能登のシン
ボル」を手際よく描き
上げ、見学に集まった
同市出身者は「懐かし
い」と楽しんでいた。

見附島は形から「軍
艦島」とも呼ばれる奇
岩で、中島さんは二十
五年前から、銭湯の壁
画に見附島を約五十
回描いている。この
日、中島さんは「富士
山の次にいい題材。壁
画を見た人に珠洲に行
ってほしい」と話し、
弟子と二人で三時間近
くかけ、縦二尺、横五
尺の壁面に、青い海に
鎮座する見附島と白い

東京奥能登応援団を
主宰する同市観光大使
の光真章さん(六三)川
崎市Ⅱの呼び掛けで同
市や市内の県立飯田高
の出身者ら数十人が応
援団として見学。珠洲

市出身の目黒区、主婦
早川能子さん(四三)は
「古里から見える風景
と同じ。幻想的で懐か
しい」と喜んだ。光真
さんは「この店をアン
テナショップに能登へ
の誘客につなげたい」
と話した。

店の壁画は、能登半
島・能登町出身の店主
川島嘉浩さん(三六)が、
光真さんからあつせん
を受け、中島さんに製
作を依頼した。

(松村裕子)



見附島の壁画を製作する中島さん(品川区で)

東京珠洲会 第49回定時総会・懇親会

10月13日(木) 午後2時から
JR 御徒町駅前 吉池ビル7階 池田屋
会費 5,000円
連絡先 笠原英二会長 04-7152-6231



平成23年9月4日 中島盛夫絵師
見附島壁画制作会

◎ふるさと行事◎

- 10月23日(金)～30日(日)
第3回全国で当地どんぶり選手権予選会
イオンレイクタウン越谷 チーム能登井出場
- 10月26日(水)～11月1日(火)
第3回金沢・加賀・能登百万石の物産展
さいか屋 藤沢店
- 11月3日(木)～9日(水)
金沢・加賀・能登百万石の物産展
さいか屋 横須賀店
- 11月23日(水・祝)
JOIN移住・交流イベント
都立産業貿易センター展示室5階

「ひとにぎりの塩」～ロードショー

珠洲の塩づくりが題材となっ
たドキュメンタリー映画が上映
のはこびとなりました。

石川県、珠洲市、珠洲商工会
議所などが後援しています。是
非観賞ください。

◎11月3日(祝・木)

ユナイテッド・シネマ浦和

TEL 048-813-8856

第1回浦和映画祭 特別上映

◎11月12日(土)～25日(金)

ユナイテッド・シネマ豊洲

TEL 03-6219-3000

前売り券1,000円

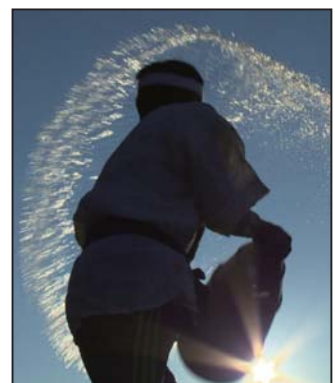
第4回

いしかわ県人祭 in 東京

日時 2011年10月14日(金曜日) 懇親会:午後6時30分～
※午後4時からプラザ5Fロビーで「いしかわ物産市」(お茶席)を開催します。
※会場へはお早めにお越し下さいますようお願いいたします。

会場 椿山荘 プラザ5F「オリオン」
東京都文京区関口2-10-8 TEL:03-3943-1111
主催:「いしかわ県人祭 in 東京」実行委員会
会費:男性10,000円、女性7,000円、学生3,000円

※このチケットはお帰りの際までお持ち下さい。



◆24年1月 ふるさと祭
後楽園ドーム
出店決定!
珠洲織陶苑 典座
(珠洲市三崎町伏見)
坂本信子 TEL 0768-88-2657

平成23年「飯田高校同窓会」の開催

去る8月16日(火)午後、「石川県立飯田高校同窓会平成23年度総会」が珠洲商工会議所において、泉谷市長、平蔵県議ら来賓を迎え、18回生の幹事をはじめ約70人の参加で開催されました。

水鶏口治幹事長の開会のことばで開会され、校歌斉唱、矢田勝治同窓会会長の挨拶の後、坂尻校長が「平成20年の統合から初めてのこの春卒業生が巣立ちました。普通科4クラス、総合学科2クラス、1学年2000人の体制が軌道に乗りました」などと現況の報告がありました。泉谷市長の祝辞の後、選出された乙谷議長のもとで議事が審議されました。



役員改選では、18回生から本年度19回生に改選となり、○会長 森井洋光、○副会長 中川政幸、番匠国雄、乙脇由美子
○幹事長 上野良夫、○事務局長 濱野優治
の各氏が選出され、参加者の拍手で了承されました。
「創立百周年事業記念事業」実行委員会西山郷史会長(17回生)からは、来年の10月21日開催の「百周年記念式典」などの計画や「募金案内」で1万2千人余りに発出された葉書が2千通程戻ってきたものの、1口5千円の募金が現在600万円になり、百周年事業や教育振興基金にも目処が立ってきた」と事業経過報告がありました。

金時草のブランド化の現況やルビーロマン(ブドウ)、秋星(リンゴ)の新種開発をめぐる苦勞話に熱が入り、講師の並々ならぬ熱意が伝わる講演でありました。

懇親会では、和氣満々のなか、矢田会長ら役員2年間の尽力に労いの言葉があり、また、新役員や百周年実行委員には今後の活躍に期待の声掛けられました。橋本秀一郎元校長の万歳三唱の中締めで散会となりました。

なお、役員らに対して来年5月19日(土)開催予定の飯田高校同窓会東京支部総会について招請が伝えられました。千代田区グランドアーク半蔵門

珠洲市観光大使

珠洲春希さん 宝塚歌劇団退団へ



12月25日(日) 19:30
帝国ホテル東京「珠洲春希東京フェアウェルパーティ」
【お問い合わせ】
すずの会 園田貴子

TEL 090-3105-4433

事務局から

《応援団の活動趣旨》

東京奥能登応援団は、平成20年7月に発足してから4年目に入りました。あらためて活動の概要について、ご紹介いたします。

● 応援団の活動目的は、「応援団だより創刊号」で表明しましたように

● 地元の要請「ふるさと奥能登の活性化に首都圏在住の出身者のご支援を」にこたえる観光宣伝、経済、文化、スポーツ事業などの支援活動

● ミニコミ紙「応援団だより」による、奥能登の地元ニュースの伝達と首都圏で開催されるふるさと行事の案内などを通じて、故郷・奥能登と首都圏在住者の皆様の架け橋になることとなります。

規約、会則などはありません。
● 事務局は、千代田区麹町4-8石川県紀尾井会館 石川県人会事務所においています。

● 役員は、代表の光眞章と事務局長の乙丸秀次がボランティアで事務方をやらせていただいております。活動目的にご賛同いただければどなたでも応援団長です。

● 主な活動は、ミニコミ紙「東京奥能登応援団だより」の発行、ホームページの運用、ふるさと行事などへの参加です。応援団は、自治体、経済団体、ふるさと会など活動目的に添った行事であれば積極的に参加します。

● 運営費用は、応援団の「有志の援助(ファンパ)」により、運営しています。従って、会費等は徴収していません。また特定の企業や団体からも援助も受けていません。宣伝広告費や会費を徴収したら、とのご意見もありますが、当面現行のままで活動することとします。

以上が、活動の趣旨、概要でありますのでご理解を賜りたいと存じます。

《応援団ホームページのアクセス(閲覧状況)調査と今後の方針》

この程、当応援団だよりのアクセス状況調査を行いました。

8月15日から9月30日にかけての1ヶ月半の、総件数は、343件。地域別では、東京の212件、石川の68件でした。大阪や秋田県からのアクセスもあり、ネット社会の普及を実感させられました。(データ統計)

これまで、観光パンフレットなど同封資料もあり、メール便によりお便りさせていただいていましたが、伝達手段をホームページにより拡充していきたいと考えています。従って「応援団だより」は従来どおり、季刊(1月、4月、7月、10月)で掲載(発行)しますが、その間の主要な予定、出来事はホームページの冒頭にピックアップとして随時記事掲載いたしますのでご閲覧ください。同封資料がある場合にはメール便でお送りします。

なお、インターネットの手段をお持ちでない方、不得手の方々にはこれまでどおりメール便でお送りいたしますので、遠慮なくお申し出ください。(住居異動された方も一報ください)

お葉書等 上記「石川県人会事務所」気付で FAX 044-988-4900宛(事務局 光眞)